

定例研究会要旨

日時：平成 28 (2016) 年 7 月 6 日 18:00～20:00

会場：東京外国語大学 語学研究所

「対格表現の地域差 ―助詞ゼロをめぐる―」

発表者：木部暢子（国立国語研究所時空間変異研究系教授，東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授(クロスアポイントメント) / 方言学)

1 概要

日本語標準語では、主格標識に「が」を、対格標識に「を」を使用する。しかし、話し言葉では助詞ゼロ（無助詞）で主格、対格を表すことがある（太郎 本 読んでるよ）。日本語諸方言を見渡すと、主格、対格の標示のしかたに地域差がある。発表では、現在、国立国語研修所で作成中の「日本語諸方言コーパス」を利用して各地の対格標示形式の地域差について述べた。

2. 「日本語諸方言コーパス」とは

「各地方言収集緊急調査」（1977～1985年に文化庁が行った方言談話調査）の音声データを使用し、検索ができるようにしたもの。本発表では、地域差を見るために青森県弘前市、東京都台東区、石川県羽咋郡押水町、大阪市、広島市、北九州市、鹿児島県頰娃町の7地点のデータを使用した。

3. 「日本語諸方言コーパス（試作版）」による対格助詞の地域差

方言コーパスにより各地の対格の格標示形式の地域差を示すと、以下のとおりである。

対格標示形式の地域差		(出現回数(%))		
地域	助詞なし	助詞あり	合計	備考
弘前	102 (94.4%)	ゴト 6 (5.6%)	108 (100%)	
東京	35 (43.2%)	オ 46 (56.8%)	81 (100%)	保留 7
羽咋	55 (64.7%)	オ 30 (35.3%)	85 (100%)	
大阪	57 (62.0%)	オ 35 (38.0%)	92 (100%)	
広島	14 (8.2%)	オ 156 (91.8%)	170 (100%)	保留 7
北九州	21 (61.8%)	オ 13 (38.2%)	34 (100%)	
鹿児島	5 (5.7%)	オ 82 (94.3%)	87 (100%)	

対格助詞ゼロの出現度は、高い順から以下のようにになっている。

弘前 > 石川県羽咋・大阪・北九州 > 東京 > 広島 > 鹿児島

ここから次のような問題が提起される。

- ・弘前は助詞ゼロが基本だが、どのようなときに助詞「ゴト」が使われるのか。
- ・広島と鹿児島は助詞「オ」が基本だが、どのようなときに助詞ゼロが使われるのか。
- ・東京、羽咋、大阪市、北九州で助詞「オ」が使われる条件はどのようなものか。

4. 弘前市方言の対格標示

弘前市方言では、主格、対格が助詞ゼロで標示されるのが基本である。語順はS-O-Vで、OとVは隣接している。対格名詞句が指示詞（ソレ、アレ）の場合は、すべて助詞「ゴト」が使われている。このことから、「ゴト」の使用には名詞句の定性が関係していると考えられる。また、「対格名詞+ゴト」は文頭に現れることがある。その場合はVに隣接しない。

助詞ゼロと「ゴト」の比較 (出現回数)

地点	文構造	助詞ゼロ (総数 102)	「ゴト」 (総数 6)
弘前	対格 NP+V	91	2
弘前	対格 NP+格要素+V	1	3
弘前	指示詞+V	0	4

5. 北九州市方言の対格標示

主格は「が」で、対格は助詞ゼロまたは「オ」で標示される。語順はS-O-Vである。助詞ゼロの場合も「オ」の場合もOとVは隣接している。助詞「オ」が現れやすいのは、対格名詞句が修飾要素を含むときである。このことから、助詞「オ」の使用は、取り立てて関係しているのではないかと思われる。

対格名詞句と動詞との距離、名詞句の (出現回数)

地点	文構造	助詞ゼロ (総数 21)	「オ」 (総数 13)
北九州	対格 NP+V	21	11
北九州	対格 NP+格要素+V	0	0
北九州	指示詞	2	1
北九州	NP[\emptyset +N]	18	6
北九州	NP[修飾要素+N]	3	7

6. 鹿児島県頰娃町方言の対格標示

主格は「ガ」で、対格は「オ」で標示されるのが基本である。助詞「オ」は名詞語末母音と融合することが多いので、「オ」かゼロかの判定には注意が必要である。例えば、以下の例の「ハナス (話しを)」は、「ハナシオ」に当たる。

257-000 C ガッチュー ハナス キケバ モー ナンダチャイガ
よく 話を 聞けば もう 涙だが

以下の「アイ」(あれを), 「オイ」(私を) の例も融合を起こしている可能性があり、無助詞の出現条件については、今後の課題としたい。

138-000 C マン ナッダゲ チュッサー アイ セダバツ
まあ なるだけ と言って あれ [を] したけど

157-000 B X24 ダ ワガエデー アイ シヨッタバツ
X24 たちは 自宅で あれ [を] していたが

442-000 B X47 カ° オイ チカマユンナ チュバツ チカマエッソラ
X47 が 私 [を] 捕まえるな と言うけれど 捕まえてね

付記

この研究は、平成 25～27 年度科研費基盤(B)一般 25284087, 平成 28 年度 科研費基盤(A)一般 16H01933 による研究成果の一部である。